

Recommendation

01 政府による救済活動だけでは、取りこぼされてしまう被災者がいます。



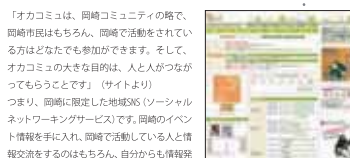
「被災地へ向け、私たち一人ひとりができること」
レギュラー：山田 高広 (りた・事務局次長)

- 子どもの向け絵本を集めて被災地へ (りたリポータークラブ)
● タオリ! 被災地に伝えたメッセージを添えて被災地へ (コープあいち)
● アレルギーを持つ人たちの支援 (アレルギー支援ネットワーク)
● 障がい (りた) 者を持つ家族の方への住宅支援 (岐阜羽島ボランティア協会)
● 被災者に無料で借りられる空き家・空き部屋の情報提供 (8球のココロ)
● 愛知県の野菜を被災地へ (NPO法人表流ネットワーク)
● 岡崎市在住避難者への生活用品を (岡崎青年会議所)
● 現地に出向く足運提供ボランティア (日本財団)
● 放射能に関する正しい知識を得るための講演会 (グリーンマン)
● チャリティコンサート開催 (ジャズストリート実行委員会)
● 救済物資の収集、ビデオレターの作成・輸送 (リッキーカーペンターズ)

01 「クリーンランニング」日記が読めるのはオカコミュだけ!

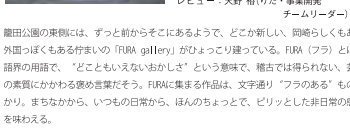
「岡崎コミュニティ(通称:オカコミュ)」

URL: http://okacomm.acplanet.biz/
レギュラー: 三矢 勝司(りた・事務局次長)



「オカコミュは、岡崎コミュニティの略で、岡崎市民はもちろん、岡崎で活動をされている方々も誰でも参加ができます。そして、オカコミュの大きな目的は、人と人がつながってもらうことです。(サイトより)」

02 日常から最前線まで 非日常へ。
「FURA gallery」
所在地: 岡崎市佐藤通1-26
URL: http://www.furagallery.com/
レギュラー: 天野 裕子(りた・事務局次長)



龍田公園の東側には、ずっと前からそこにあって、どこか新しい、隠れ家ともあり外見はともないうる「FURA gallery」がよこって建てている。FURA (フラ) とは英語の用語で、「どこともないさし」の意味で、確信は得られない、其の素質がつかぬ意味も含まれる。FURAに集まる作品は、文字通り「フラのある」ものばかり。まちなから、いつもの日常から、ほんのふとで、ピッとした非日常の感覚を味わえる。

01 人と人の空間を、生物学的に、文化的に知る。



「かくれた次元」
著者: エドワード・T・ホール
翻訳者: 日高敏隆・佐藤信行
定価: 2,100円
レギュラー: 三矢 勝司(りた・事務局次長)

人間の生存やコミュニケーション・建築・都市計画には「空間」のあり方が大きな意味をもつ。本書は第一に、人間の生物学的側面(視覚・聴覚・嗅覚・筋力・温度)から、混み合うことの意味、自覚行為を解説し、空間が生物に与える影響を指し示している。第二に、文化的側面による公的、私的な空間への知覚の違いを(アメリカ人、ドイツ人、アラブ人、日本人を例に)指摘している。社会学を専攻する学生には必須の書とされているが、現代まちづくりにも必須の名著の一つであろう。

02 模様・意匠は宇宙を語る。

「生命の樹・花宇宙(万物照度劇場)」

著者: 杉浦 康平
定価: 2,940円
レギュラー: 深谷 紗季子(りた・広報)



著者はグラフィック、装丁デザインで有名ですが、世界各国の建築文化に関する造詣も深く、その歴史からその土地の世界観、宇宙観を考察しているのがこの本です。彼の考察力の鋭さ、文章力の高さには本当に圧倒されます。また歴史的には私地、御園町津島市の匠師「天正翁」についても意図されていたのが、これを読んでみると驚かされることでした。これを読んだらあなたも身近な祭、建物の意匠や模様の見方が変わっちゃうかも。

ID_000051

Litarcy

テーマ: 「路地再生」

2011年3月11日に発生した東日本大震災の被害は、その後1ヶ月が経っても、避難所暮らしを初めて大変な状況が続いており、被災者の皆様にはからお見舞い申し上げます。
現状においては、救助・救済の段階から復旧の段階に移行しつつあり、復興のあり方が課題となっている。日本建築学会や日本都市計画学会をはじめとして、まちづくりの専門家の間では、復興のあり方(復興後のまちの姿)を巡って各種の提案活動が巻き起こりつつある。ほぼ白紙の状態になったまちを、どのようなまちとして復興するか。そこには、まちづくりの哲学が問われる。

5年前に、ドイツの歴史的地区を巡る機会があり、その経験を友人さん(交通計画専攻)と談話している時に「まちづくりの哲学の違い」に遭遇する機会があった。ドイツの歴史的地区(ローテンブルグ、ニュルンベルク他)は、その多くが観光地として有名であり、歴史の建築物の風情ある景観道にあふれる人々の賑わい、食べ物の香りや路面電車が走り出す音、旅行者の感動を呼ぶ。
ここでさんから指摘されたのは「ドイツも日本も敗戦国である」という事実だ。つまり、ドイツも日本も主要な都市が戦争で破壊された歴史が共通している。しかし、ドイツには主要な都市に歴史的地区があり、日本の主要な都市(例えば、岡崎・康生院)には歴史的地区が無い、という違いがある。1さんの解説によると「ドイツ国民は、戦争で破壊された都市を元通りに復元することを指した」のに対し「日本国民は、戦争で破壊された都市を新しいまちに作り変えた(※1)のである。ここには、まちづくりの哲学の違いがある。(皆さんは、もし自分の町(岡崎)が、何かしらの要因で崩壊してしまつたとすると、どちらを選択

伝説?の コラムニストが語る!
三矢勝司の だとすると
コラムニスト: 三矢勝司 | KATSUSHI MITSUYA
NPO法人岡崎まちづくりセンター・りた事務局次長

するであろうか)
もちろん、過去を排除し、新しいまちに作り変えたことで、市街地内を車で交通しやすくなる等、便利になったこともあるだろう(※2)。しかし、失ったものもあるのではないかと。その最たる例の一つが「路地」だ。家と家の間にある路地は、大きさが人間的で、家から出てきた人同士の会話や育む。軒先園芸の縁が、地域に潤いと季節感をもたらししてくれる。路地は子ども達の遊び場であり、あるいは多世代がたむろする場(縁台に腰掛けて囲碁や将棋が繰り広げられる)であり、時として、祭りや演奏が繰り広げられる非日常的娯楽(ハレ)の場でもあった。路地には、日本人が社会関係を築くのに相応しい快適距離(※3)が潜んでいる。

敗戦国ドイツと日本。都市を復元したドイツに対し、都市を作り変えた日本が失った生活文化が、路地には潜んでいる。点にする路地的空間を活かした魅力あるまちづくりの事例を岡崎で実現したい。

- ※1: 昔あった道を手がかりにして道路を整備する例が多いので、都市の痕跡は僅かに残っている。
※2: 因みにドイツでは、旧市街地内は歩行者優先(路面電車や自転車アクセスの劣等)、旧市街地外が自動車優先のまちづくりとなっているため、交通体系として不便であるわけではない。
※3: 人間が安心して暮らす距離は文化によって異なる。「かくれた次元」(エドワード・T・ホール著、日高敏隆・佐藤信行(翻訳)、みすず書房、2000年)を参照のこと。
※4: 例えば、路地に水を溜めて夏の涼をとる文化は、電力消費を抑えるための現代環境共生ライフにも有効なはずだ。

EVENT SCHEDULE

5 May
1 11:00-16:00 第2回みどり市
7 9:30-19:30 神明宮大祭
8 8:30-21:00 神明宮大祭
7 12:00-14:00 花のとう
8 12:00-19:00 花のとう
8 10:00-13:00 やはぎかん 花のとう協賛イベント
8 10:00-13:00 青空クリエイティブ フェスタ@龍田公園
6 June
1 14:00-19:00 岩津ゼミ
5 10:00-12:00 考えてみませんか?防災のこと。
9 9:30-11:30 小さな庭をテラリウムガーデンに。
20 10:00-12:00 岡崎まち育てセンター・りた 総会

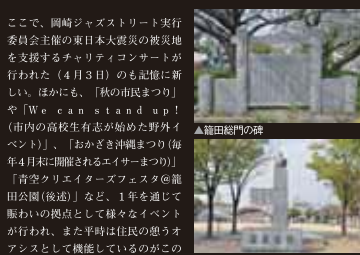
Theme

公的「新しい社会への入口 籠田公園」

激動の歴史の中で、岡崎城への入口、時には平和な社会への入口（シンボル）として、また、時には新しい中心市街地への入口として、常に世相を反映してきた「籠田公園」。加えて、「公園」がどうやって籠田公園をつくってきたかという視点でみれば、巨大な権力（幕府、行政）、主導の時代から、市民主導の時代への変容が読み取れる。籠田公園は、いつの時代も、社会の変化を象徴する現場なのだ。



▲籠田公園の象徴とも言える橋と戯れる子どもたち



▲籠田公園の歴史を語る写真

ここで、主催のジャストリット実行委員会主催の日本大震災の被災地を支援するチャリティコンサートが行われた（4月3日）のも記憶に新しい。ほかにも、「秋の市民まつり」や「We can stand up!（市内の高校生有志が始めた野外イベント）」、「おかしな沖崎まつり（毎年4月4日開催されるエイサーまつり）」、「青年クリエイティブフェスタ@籠田公園（後述）」など、1年を通じて賑わいの拠点として様々なイベントが行われ、また平時は住民の憩うオアシスとして機能しているのがこの籠田公園だ。

1. 籠田公園概要
岡崎市籠田町にある中心市街地唯一の公園である。北には中山を背負い、南は中央緑道を挟んで川に臨む。西は図書館交流プラザ「Libra」、東はたけなき館という岡崎中心市街地活性化のための2つの拠点を結び、ちょうど中ほどに位置する「中心市街地のへま」にあたる。

2. 籠田公園をとりまく歴史
見るとされがたが、籠田町とその周辺は、このまちの歴史を物語り様々な姿容が映し出されている。中央緑道に沿って南に50mほどと、籠田橋門の碑がある。ここはかつて岡崎城の東側の出入り口だった。公園東側にはつとむと佇んでいる常夜灯は、今から200年以上も前の1798年（寛政10年）、岡崎城下で3番目につくられたもので、当時籠田門の近くにもあったもので、伝馬通りを挟んだ方向が側で、籠田公園を見守るようには、籠田橋門の二七七曲りを整備した田中市政の石造だ。二十七曲りに貫き、進尺通りになり、川南の南を通っていた東海道は、城壁内に入り、外側の段に備え、城までの距離を伸ばすためにあえくらくの多い道—二十七曲りを整備し

たのが、安定政権が築くと防衛の意図は、籠田町「籠田門」としては、籠田橋門、商家などが立ち並び、岡崎はかつてないほどの繁栄ぶりを見て現在の姿になった。

3. 籠田公園の今とこれから
自動車の普及、大型ショッピングセンターの進出などをきっかけに、籠田公園はかつての賑わいを失いつつある。そんな中、人々の憩いや活動の場として歴史を刻んできた籠田公園に、また新たな想いが重ねられようとしている。2008年から、中心市街地に賑わいを取り戻すための一環として、籠田公園の再整備を計する住民参加ワークショップが、公園緑地課主催、NPO岡崎城下再生協議会のコーディネーターのもと開催されてきた。

ここでは、戦災復興の碑や野外ステージ、街路樹など、既存の資源を残しつつ、公園内にあった二十七曲りや田中城を想わせる輪郭の導入や、雨ど追加型花壇、小山の整備、そして広場

も設置された。その際、中心市街地にふさわしく多目的なイベントに利用できる公園として野外ステージ、遊具広場、休憩所、便所なども設置された現在の姿になった。

3. 籠田公園の今とこれから
自動車の普及、大型ショッピングセンターの進出などをきっかけに、籠田公園はかつての賑わいを失いつつある。そんな中、人々の憩いや活動の場として歴史を刻んできた籠田公園に、また新たな想いが重ねられようとしている。2008年から、中心市街地に賑わいを取り戻すための一環として、籠田公園の再整備を計する住民参加ワークショップが、公園緑地課主催、NPO岡崎城下再生協議会のコーディネーターのもと開催されてきた。

ここでは、戦災復興の碑や野外ステージ、街路樹など、既存の資源を残しつつ、公園内にあった二十七曲りや田中城を想わせる輪郭の導入や、雨ど追加型花壇、小山の整備、そして広場

も設置された。その際、中心市街地にふさわしく多目的なイベントに利用できる公園として野外ステージ、遊具広場、休憩所、便所なども設置された現在の姿になった。

3. 籠田公園の今とこれから
自動車の普及、大型ショッピングセンターの進出などをきっかけに、籠田公園はかつての賑わいを失いつつある。そんな中、人々の憩いや活動の場として歴史を刻んできた籠田公園に、また新たな想いが重ねられようとしている。2008年から、中心市街地に賑わいを取り戻すための一環として、籠田公園の再整備を計する住民参加ワークショップが、公園緑地課主催、NPO岡崎城下再生協議会のコーディネーターのもと開催されてきた。

ここでは、戦災復興の碑や野外ステージ、街路樹など、既存の資源を残しつつ、公園内にあった二十七曲りや田中城を想わせる輪郭の導入や、雨ど追加型花壇、小山の整備、そして広場

も設置された。その際、中心市街地にふさわしく多目的なイベントに利用できる公園として野外ステージ、遊具広場、休憩所、便所なども設置された現在の姿になった。

3. 籠田公園の今とこれから
自動車の普及、大型ショッピングセンターの進出などをきっかけに、籠田公園はかつての賑わいを失いつつある。そんな中、人々の憩いや活動の場として歴史を刻んできた籠田公園に、また新たな想いが重ねられようとしている。2008年から、中心市街地に賑わいを取り戻すための一環として、籠田公園の再整備を計する住民参加ワークショップが、公園緑地課主催、NPO岡崎城下再生協議会のコーディネーターのもと開催されてきた。

ここでは、戦災復興の碑や野外ステージ、街路樹など、既存の資源を残しつつ、公園内にあった二十七曲りや田中城を想わせる輪郭の導入や、雨ど追加型花壇、小山の整備、そして広場

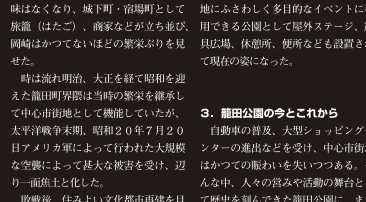
も設置された。その際、中心市街地にふさわしく多目的なイベントに利用できる公園として野外ステージ、遊具広場、休憩所、便所なども設置された現在の姿になった。

3. 籠田公園の今とこれから
自動車の普及、大型ショッピングセンターの進出などをきっかけに、籠田公園はかつての賑わいを失いつつある。そんな中、人々の憩いや活動の場として歴史を刻んできた籠田公園に、また新たな想いが重ねられようとしている。2008年から、中心市街地に賑わいを取り戻すための一環として、籠田公園の再整備を計する住民参加ワークショップが、公園緑地課主催、NPO岡崎城下再生協議会のコーディネーターのもと開催されてきた。

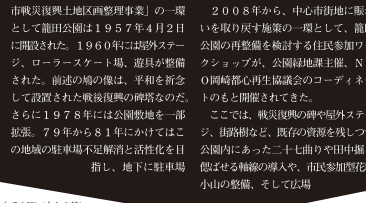
ここでは、戦災復興の碑や野外ステージ、街路樹など、既存の資源を残しつつ、公園内にあった二十七曲りや田中城を想わせる輪郭の導入や、雨ど追加型花壇、小山の整備、そして広場



▲地下駐車場の整備される前(昭和56年3月頃)の籠田公園(写真提供:岡崎市)



▲甲山の上に六ヶ池水地が見える。ステータスの規模も今と若干異なる。



▲籠田公園の今とこれからのイメージ写真

も設置された。その際、中心市街地にふさわしく多目的なイベントに利用できる公園として野外ステージ、遊具広場、休憩所、便所なども設置された現在の姿になった。

3. 籠田公園の今とこれから
自動車の普及、大型ショッピングセンターの進出などをきっかけに、籠田公園はかつての賑わいを失いつつある。そんな中、人々の憩いや活動の場として歴史を刻んできた籠田公園に、また新たな想いが重ねられようとしている。2008年から、中心市街地に賑わいを取り戻すための一環として、籠田公園の再整備を計する住民参加ワークショップが、公園緑地課主催、NPO岡崎城下再生協議会のコーディネーターのもと開催されてきた。

ここでは、戦災復興の碑や野外ステージ、街路樹など、既存の資源を残しつつ、公園内にあった二十七曲りや田中城を想わせる輪郭の導入や、雨ど追加型花壇、小山の整備、そして広場

も設置された。その際、中心市街地にふさわしく多目的なイベントに利用できる公園として野外ステージ、遊具広場、休憩所、便所なども設置された現在の姿になった。

3. 籠田公園の今とこれから
自動車の普及、大型ショッピングセンターの進出などをきっかけに、籠田公園はかつての賑わいを失いつつある。そんな中、人々の憩いや活動の場として歴史を刻んできた籠田公園に、また新たな想いが重ねられようとしている。2008年から、中心市街地に賑わいを取り戻すための一環として、籠田公園の再整備を計する住民参加ワークショップが、公園緑地課主催、NPO岡崎城下再生協議会のコーディネーターのもと開催されてきた。

ここでは、戦災復興の碑や野外ステージ、街路樹など、既存の資源を残しつつ、公園内にあった二十七曲りや田中城を想わせる輪郭の導入や、雨ど追加型花壇、小山の整備、そして広場

も設置された。その際、中心市街地にふさわしく多目的なイベントに利用できる公園として野外ステージ、遊具広場、休憩所、便所なども設置された現在の姿になった。

3. 籠田公園の今とこれから
自動車の普及、大型ショッピングセンターの進出などをきっかけに、籠田公園はかつての賑わいを失いつつある。そんな中、人々の憩いや活動の場として歴史を刻んできた籠田公園に、また新たな想いが重ねられようとしている。2008年から、中心市街地に賑わいを取り戻すための一環として、籠田公園の再整備を計する住民参加ワークショップが、公園緑地課主催、NPO岡崎城下再生協議会のコーディネーターのもと開催されてきた。

ここでは、戦災復興の碑や野外ステージ、街路樹など、既存の資源を残しつつ、公園内にあった二十七曲りや田中城を想わせる輪郭の導入や、雨ど追加型花壇、小山の整備、そして広場

も設置された。その際、中心市街地にふさわしく多目的なイベントに利用できる公園として野外ステージ、遊具広場、休憩所、便所なども設置された現在の姿になった。

3. 籠田公園の今とこれから
自動車の普及、大型ショッピングセンターの進出などをきっかけに、籠田公園はかつての賑わいを失いつつある。そんな中、人々の憩いや活動の場として歴史を刻んできた籠田公園に、また新たな想いが重ねられようとしている。2008年から、中心市街地に賑わいを取り戻すための一環として、籠田公園の再整備を計する住民参加ワークショップが、公園緑地課主催、NPO岡崎城下再生協議会のコーディネーターのもと開催されてきた。

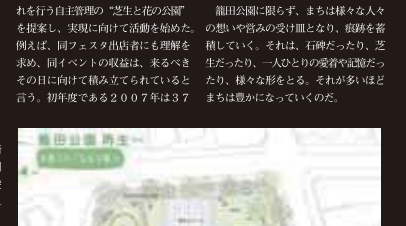
ここでは、戦災復興の碑や野外ステージ、街路樹など、既存の資源を残しつつ、公園内にあった二十七曲りや田中城を想わせる輪郭の導入や、雨ど追加型花壇、小山の整備、そして広場

も設置された。その際、中心市街地にふさわしく多目的なイベントに利用できる公園として野外ステージ、遊具広場、休憩所、便所なども設置された現在の姿になった。

3. 籠田公園の今とこれから
自動車の普及、大型ショッピングセンターの進出などをきっかけに、籠田公園はかつての賑わいを失いつつある。そんな中、人々の憩いや活動の場として歴史を刻んできた籠田公園に、また新たな想いが重ねられようとしている。2008年から、中心市街地に賑わいを取り戻すための一環として、籠田公園の再整備を計する住民参加ワークショップが、公園緑地課主催、NPO岡崎城下再生協議会のコーディネーターのもと開催されてきた。

ここでは、戦災復興の碑や野外ステージ、街路樹など、既存の資源を残しつつ、公園内にあった二十七曲りや田中城を想わせる輪郭の導入や、雨ど追加型花壇、小山の整備、そして広場

の芝生などが提案されている（下図）。ここで課題となるのが、芝生敷設に伴うメンテナンス費用だ。駆け回った子供たちや、芝生を踏み荒らす動物の糞、さらには、毎年維持費が必要となる。『芝生化実現の障壁が費用なら、私たちがそれを負担すれば可能になるのではありませんか?』という発言で盛りだぶったが、『青年クリエイティブフェスタ@籠田公園』だ。実行委員の一人、天野めぐみさんは、市民有志で資金調達と手入れを行う自主管理の「芝生と花の公園」を提案し、実現に向けて活動を始めた。同フェスタ出展者にも、理解を求め、同イベントの収益は、来年のフェスタに向けて積み立てられていると、初年度である2007年は37



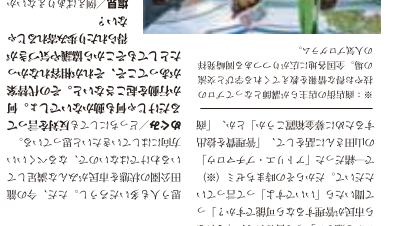
▲籠田公園ワークショップで提案されたプラン



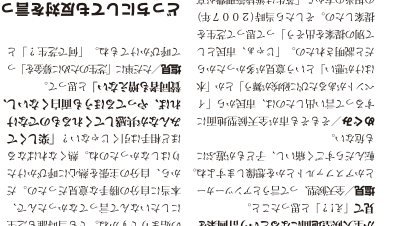
▲籠田公園ワークショップで提案されたプラン



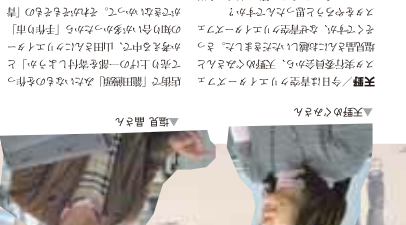
▲籠田公園ワークショップで提案されたプラン



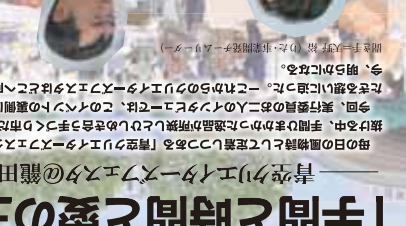
▲籠田公園ワークショップで提案されたプラン



▲籠田公園ワークショップで提案されたプラン



▲籠田公園ワークショップで提案されたプラン



▲籠田公園ワークショップで提案されたプラン